

悲しい昔話⑦ 『おひき』

私の在所では慶弔事にいただいた引き出物の一部を隣近所にお裾分けすそをする習わしがあります。そして、この裾分けを届ける係はその家の子どもでした。

さて、保護者のみなさんは『おひき』(おしき)という言葉をご存知でしょうか。

引き出物の一部をその家の子どもが重箱に入れてお隣へ届けにいきます。お隣の玄関先で訪問の目的を言わなければなりません。これが子どもにとっては結構高いハードルなのです。「うちのばあちゃんがシンセキのホージに行ってきました。」というようなことを子どもの言葉で言うのです。何とか口上が言えれば隣の住人は重箱から裾わけを取り出して代わりに小銭を新聞紙の切れ端かなんかで包んで入れてくれるのです。小学校低学年のころですから5円か10円だったのではないのでしょうか。これを『おひき』というのです。帰り道、重箱をゆすってみると紙に包んだものがカサコソと音をたてるので『おひき』が入っているのがわかるのです。この小銭を横取りする親はいませんでした。子どもにとっては緊張の後の大きな喜びでした。ところが、この頃は届ける子どもが在所にいません。